

令和6年度京丹後市総合防災訓練の実施について

～市民の「自らの命は自らで守る」防災意識の高揚と、行政・関係機関の連携強化を図る～

令和6年8月16日
京丹後市役所

市では、災害時における被害の軽減及び市民の防災意識の高揚を図ることを目的として、例年、8月最終日曜日に市全域で防災訓練を行っています。

今年度は、本年1月に発生した能登半島地震等を踏まえ、地震・津波の複合災害を想定した訓練を下記の通り行います。

記

1. 日 時

8月25日(日)午前8時00分～午前10時00分頃

2. 想 定

8月25日午前8時00分に、本市内の郷村断層の一部がズレこみ現象を起こし、M7.2、震度7の地震が発生し、午前8時03分、津波警報が発表される。その後、孤立集落、倒壊家屋、埋没車両、火災等の被害が生じることを想定し、訓練を実施する。

3. 参加人数(予定)

- (1)各地区の訓練 174地区 約13,000人
- (2)市職員訓練 約500人

4. 訓練内容

(1)市民を対象とした主な訓練

ア シェイクアウト訓練

防災行政無線で放送される緊急地震速報に合わせ、各自がその時にいる場所で、自分の身を守る行動を行う。

(防災行政無線放送スケジュール)

8:00 緊急地震速報・震度速報

8:03 津波警報

イ 要配慮者、避難行動要支援者の避難訓練(各地区)

ウ 沿岸地域における津波避難訓練(各地区)

(2)地区総合防災訓練

地域住民と海上保安庁、自衛隊、警察、消防等の防災機関、民間団体が連携して行う「地区総合防災訓練」を今年は、能登半島地震等を踏まえ、内陸部(大宮町)と沿岸部(丹後町)の2会場で実施します。

	大宮町会場	丹後町会場
①日時	8月25日(日) 午前9時00分～午前10時00分頃	
②場所	大宮中学校グラウンド	宇川地域
③訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶避難所運営、情報収集伝達訓練(アマチュア無線ボランティア等) ▶倒壊家屋・埋没路線バスからの救出・救助訓練(警察、自衛隊、消防、丹後海陸交通株式会社) ▶火災想定消火訓練(消防団) ▶高所作業車搭乗体験(関西電力送配電株式会社)ほか 	<ul style="list-style-type: none"> ▶孤立集落への支援物資搬送訓練(搬送経路) ①消防局航空隊ヘリ⇒②航空自衛隊トラック⇒③海上保安庁巡視艇⇒④警察水上バイク、地元漁船⇒⑤地元地域・消防団等(下図参照)



(3)市職員的主要訓練

- ア 市災害対策本部・支部設置運営訓練
- イ 地区と連携した避難者受付訓練

5. その他

当日の気象状況等により訓練の全部又は一部を中止とする場合があります。

参加機関一覧

(順不同)

舞鶴海上保安部
陸上自衛隊第7普通科連隊
航空自衛隊第35警戒隊
京都府京丹後警察署
京都市消防局
京丹後市消防団
西日本電信電話株式会社京都支店
丹後海陸交通株式会社
関西電力送配電株式会社京都支社
社会福祉法人京丹後市社会福祉協議会
京都土地家屋調査士会
特定非営利活動法人 京丹後コミュニティ放送
京丹後市アマチュア無線災害ボランティア
京都府漁業協同組合丹後支所(ボランティア参加)

【問い合わせ先】

京丹後市総務部総務課 担当:沖、河邊、炭屋

TEL 0772-69-0140/FAX 0772-69-0901

令和6年度京丹後市地区総合防災訓練の詳細について

今年1月に発生した能登半島地震等を踏まえ、地震、津波を想定した防災教訓を実施します。

災害については、最近でも全国各地で発生しており、本市においても、いざという時に備え、防災訓練をはじめ、日頃から災害に対する準備を行っておくことが何よりも重要であると考えています。そうした中で、今回の訓練では、地震、津波に対する事前の備えと、災害直後の訓練を実施することにより、市民の防災意識高揚と関係機関相互の連携強化等を図ります。

【大宮町会場】会場：大宮中学校グラウンド

倒壊家屋、埋没路線バスからの救出・救助訓練

- ・丹後海陸交通株式会社の協力のもと、埋没路線バスからの乗客救出・救助
- ・大宮中学校体育館を倒壊建物と見立てた要救助者の救出・救助
- ・ドローンを活用した要救助者搜索

避難所運営、情報収集伝達訓練

- ・地域と市が連携した避難所開設、運営
- ・給水車による給水活動
- ・廃棄物適正処理四業者協議会との災害時応援協定に基づく簡易・仮設トイレの設置

火災想定消火訓練

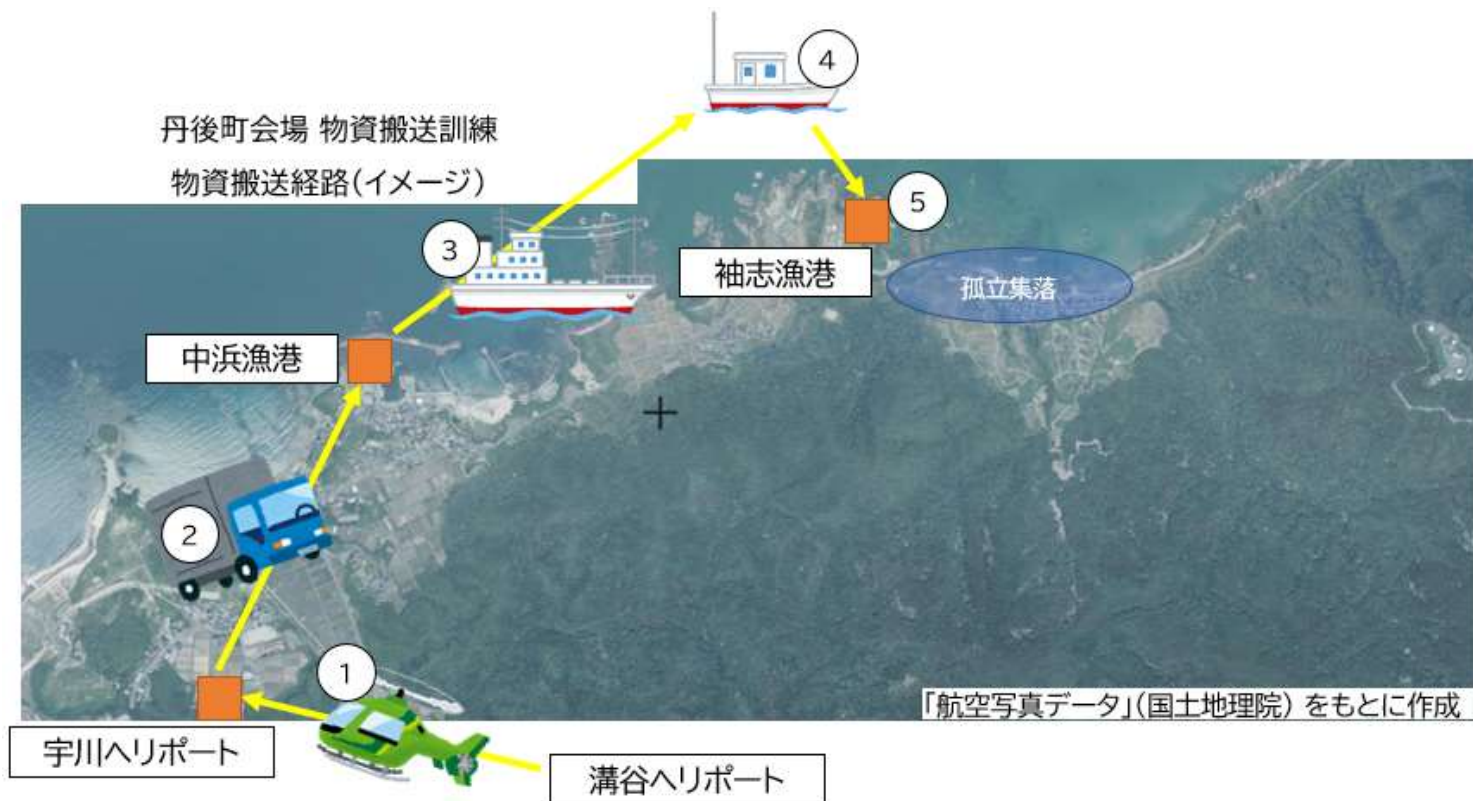
- ・昨年8月に市内で発生した大規模林野火災を踏まえ、京丹後市消防団峰山方面隊・大宮方面隊が連携した消火活動



【丹後町会場】 会場：溝谷ヘリポート～宇川ヘリポート～中浜漁港～袖志沖～袖志漁港

孤立集落への支援物資搬送訓練

(船舶・ヘリを使った物資搬送訓練は本市発足後で初)



① 京都市消防航空隊ヘリコプター

消防団が積み込んだ支援物資を溝谷ヘリポートから宇川ヘリポートへ京都市消防航空隊ヘリコプターで空輸。

② 航空自衛隊第35警戒隊トラック

宇川ヘリポートにおいてヘリコプターから荷下ろしした物資を航空自衛隊トラックへ積み替え、中浜漁港へ陸路で搬送。

③ 舞鶴海上保安部巡視艇

航空自衛隊等の協力を得て、中浜漁港においてトラックから荷下ろしした物資を舞鶴海上保安部巡視艇へ積み替え、袖志に向けて海路で搬送。

④ 京都府京丹後警察署の水上バイクと漁船

巡視艇では浅瀬のため袖志漁港に着岸することができないことから、袖志沖で水上バイク(2台)と漁船(2隻)に積み替え(せどり)を行い、袖志漁港まで搬送。

⑤ 物資孤立集落(袖志)の住民、消防団

水上バイクと漁船で搬送を行った支援物資を袖志漁港において地元住民、消防団が引き受け、袖志公民館へ搬送。